

看護学専攻（老年看護学 領域）（博士前期[○]修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第 外国語（英語） / 専門科目（ ）

試験時間：（ 60 ）分

問題 1. 以下の英文を読んで設問に答えなさい。解答は全て解答用紙に記載しなさい。

The World Health Organization WHO considers climate change to be the biggest threat to human health of this century (WHO, 2019). Climate change causes an increase in heat waves, extreme weather events, flooding, and wildfires. **①All these negatively affect human health**, such as various heat-related diseases, water-borne diseases, vector-borne infections, accidents caused by extreme weather events, mental health problems and poor air quality (Anderko et al., 2017; CDC, 2021; Rocque et al., 2021). An increase in heat waves has been linked to an increase in cardiovascular problems and mortality. The effects of floods go beyond structural damage, increasing the number of drowning deaths and increasing mental health problems such as depression. Forest fires are known to significantly affect respiratory health (Gasparrini et al., 2017; Heaviside et al., 2016; Curtis et al., 2017; IPCC, 2023). **②Knowledge of the connection between climate change and health is essential for healthcare professionals, and for this reason it should be included in nursing education.** The report of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC, 2018; IPCC, 2023) emphasizes the effects of climate change on human health, which also exacerbates already existing health challenges.

The United Nations Framework Convention on Climate Change ratified the Paris Agreement on 12 December 2015. During UN Climate Change Conference (COP 21) in Paris a special session was held to discuss the health impacts of climate change and the need to train health professionals to address climate impacts and emphasized the need for training related to the impacts of climate change (Paris Agreement, 2015). Integrating climate change into nursing education highlights the role of nurses in mitigating and adapting to the challenges caused by climate change (Gasparrini et al., 2015). **③The International Council of Nurses (ICN, 2018) has recognized the need for health care systems to be climate resilient, with nurses ready to face the challenges brought by climate change and strives to increase awareness of the connections between environmental factors and health.**

④Nurses play an important role in combating climate change and improving environmental sustainability. Nurses can also act as promoters of environmental stewardship, for example through waste management, recycling, and promoting the use of reusable nursing materials (Saber, 2020). Additionally, there have been various initiatives around the world where nurses have been involved in tree planting projects, such as Old Dominion University and Africa Air Rescue (AAR) Healthcare's Trees for Health (T4H) initiative, further showing their commitment to environmental protection and public health (AAR Healthcare, 2022; Grinkewitz, 2022).

The effects of climate change on people's health will challenge nurses in care delivery and therefore require educated nurses to respond. As trusted professionals, nurses can support climate change mitigation and adaptation. To respond to the problems caused by climate change, proactive measures need be taken (Butterfield et al., 2021; Goodman, 2013; Goodman and East, 2014; Portela Dos Santos et al., 2023). **⑤Although the link between climate change and health is recognized, this knowledge has not been systematically integrated into nursing education.** However, this information is necessary for preparation of nurses, the largest group of licensed health professionals globally (Lemery et al., 2020; Dupraz and Burnand, 2021).

出典：Iira Tiitta et al., Climate change integration in nursing education: A scoping review, Nurse Education Today, 139 (2024), 106210 より一部、抜粋

問題 2. 次の英文を読んで、設問に日本語で答えなさい。

出典 : *Akiko Yano, Hiromi Fukuda, Akihiro Araki et.al(2025): A qualitative study of the developmental process of professional identity of nurses who stutter—Narratives of a nurse at career maturity: An analysis using the trajectory equifinality approach, Jpn J Nurs Sci. 2026;23:e70041.* より一部抜粋。

【問題2】

設問1. 吃音を持つ人は、働く上でどのような可能性があるかと述べていますか。
またその理由は何か答えなさい。

可能性：

理由：

設問2. 吃音のある看護師は、職場においてどのような経験をしているかと述べていますか。

設問3. 先行研究における、専門職としてのアイデンティティに悪影響を及ぼす要因を挙げなさい。

設問4. 本研究の意義を述べなさい。

設問5. Trajectory Equifinality Approach（複線径路等至性アプローチ）は本研究においてどのような効果があると述べられていますか。

設問6. 本研究の目的を答えなさい。

看護学 専攻 老年看護学 領域（博士前期/修士）

試験科目：専門科目（老年看護学）

試験時間：（60）分

I. 以下の文章を読み、各設問に解答しなさい。解答はすべて解答用紙に日本語で記載すること。設問毎に解答用紙をそれぞれ1枚使用すること。

令和6年度診療報酬改定で、入院基本料算定要件の一つとして、医療機関における身体的拘束を最小化する取組を強化するため、入院料の施設基準に、患者又は他の患者等の生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束を行ってはならないことを規定するとともに、医療機関において組織的に身体的拘束を最小化する体制を整備することが規定されました。

参考文献：厚生労働省保険局医療課；令和6年度診療報酬改定の概要 重点分野Ⅱ（認知症、精神医療、難病患者に対する医療）<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/001238907.pdf>

設問1. 身体拘束となる具体的な行為について7つあげなさい。

設問2. 身体拘束による弊害について6つあげなさい。

設問3. 医療機関において身体的拘束を最小化するために①個人に求められること、②チームや組織としてどのような取り組みが重要か、自己の考えについて記載しなさい。

平成30年に認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインが策定された。意思決定支援プロセスには、意思決定支援者の態度、意思決定支援者との信頼関係、立ち会う者との関係性への配慮等の「人的・物的環境の整備」を土台として、「意思形成支援」、「意思表示支援」、「意思実現支援」のステップが明示されている。

参考文献：厚生労働省；認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000212396.pdf>

設問4. 意識障害のある人や認知症の人の意思決定支援について、自己の臨床経験でかかわった事例を具体例にあげて、①どのような意思決定支援にかかわったか、②上記ガイドラインの土台である「人的・物的環境の整備」と意思決定支援の3つのステップに沿って、かかわった支援内容を記載し、③支援の結果とその結果から考察する課題について論じなさい。

看護学専攻（老年看護学 領域）（博士前期~~（修士）~~博士後期・前後期共通）

試験科目： 小論文

試験時間：（ 60 ）分

問 以下の文章を読み、著者のいう「二人称の死と三人称の死の間」に対するあなたの考えを、700字～800字で述べなさい。

二人称の死と三人称の死の間

「誰の死か」によって異なる死の感覚

死についての感覚は、「誰の死か」によっても、まったく異なる。具体的な例を示すと、2023年には、日本では過去最多の157万人以上が亡くなったが、この数字を聞いても、「こんなにたくさんの方が亡くなって、なんて悲しいことだ！」とは、多くの人は思わないだろう。なぜなら、この157万以上の死者のうち、ほとんどの人のことを私たちは知らないからだ。毎日のように、悲惨な事件や事故に巻き込まれて亡くなる人の報道を私たちは見聞きするが、「かわいそう」とは思っても、「涙が出るほど悲しい」とは感じないのではないだろうか。閑静な住宅街で殺人事件が起きた時、記者やレポーターが近所の人にインタビューしている光景がテレビニュースなどで流れるが、「この地域でこんな殺人事件が起きるなんて想像もしなかった。こわいですね、早く犯人が見つかってほしいです」といったようなことを言う人が多い。

でも、この被害者が親しい友人だったり、大切な家族だったりしたらどうだろうか。頭の中が真っ白になるだろうし、狂わんばかりに悲しいし、犯人のことを憎むかもしれない。自分も後を追って死にたいと思うかもしれないし、お腹がすいたという感覚がなくなり、食欲もなくなるかもしれない。夜は眠れないし、イライラもするだろうし、とにかく、自分が自分ではなくなってしまう感覚に陥ることもあるだろう。

同じひとりの人の死でも、その人と親しい人と、その人のことをまったく知らない人とでは、受け止め方はまったく異なるし、親しい人が亡くなった時は悲しいけれど、面識がまったくない人が亡くなった場合には、そもそも何とも思わないかもしれない。また顔見知り程度の人の死の場合は、訃報を聞くと、「えええ！」とは驚くが、やはりそれほど悲しいとは思わないだろう。前述した、殺人事件があった地域住民のインタビューのような反応だ。このように、死に対する感覚は、死者との関係性によって受け止め方は大きく異なる。

死を、「一人称の死」（自分の死）、「二人称の死」（身近な人の死）、「三人称の死」（他人の死）と3つに分類したのはフランスの哲学者ウラジーミル・ジャンケレヴィッチである。「わたし」にとっては、二人称の人の死は悲しいが、三人称の人の死は、「昨年、何人が亡くなった」「がんで亡くなった人が増加している」といったように、統計としての概念であると、ジャンケレヴィッチは著書「死」のなかで述べている。

私が夫と死別した話は、この著書でもたびたび触れているが、夫が亡くなったと知った周りの人は「かわいそうに」と私を慰めてくれたが（「私がかわいそうなのではなく、死んだ夫がかわいそうなのに」と、この言葉が私をずいぶん苦しめたのだが）、よくよく考えると、私と夫は赤の他人だ。夫と死別した時点で、私たちは、せいぜい知り合って20年足らずだった。しかし夫の母親は、自分が産んだ息子の死をどう受け止めるのだろうかかと考えると、私よりも母親の方が「かわいそう」な存在ではないかと思った。夫の姉は、立ち直れないほど何か月も悲しんでいた。42歳で亡くなった夫とは、親も姉も兄も夫が誕生した時から42年の付き合いがあったのだから、私とは比べものにならないぐらい、付き合いは長い。2010年頃までの日本は、今のようにSNSが発達している時代ではなかったこともあり、生前の夫は、姉や兄とは年に一度会うか会わないかという付き合いではあったものの、姉にと

っては、弟の死は大きなショックだったようだ。年に一度の再会だとしても、会おうと思えば会えるということと、会おうと思っても二度と会えないという現実とでは、受け止め方がまったく違うのだろう。

親の死が「身近な他人の死」に

しかし、肉親や家族の死は悲しいか、と問われれば、そうとも限らない。昨今では、親が亡くなって、悲しいと思う人ばかりではなくなっている。核家族化が進み、子どもが成人した後は、別居するケースが増えている。親子が同居する期間はせいぜい二十数年で、その後の数十年は別居しているわけで、子どもにとっては、人生の大半は親と別居していることになる。親が身体的に自立できなくなれば、「子どもに迷惑をかけたくない」と、介護施設へ入ることが、昨今では当たり前になっている。

そんななか、親が老い、病に倒れ、亡くなっていく様子を、子ども世代は身近で見ることが少なくなっている。遺体となった親を見ても、子にとっては、三人称の死でもないが、二人称の死でもないといった感覚になる。身近な他人の死、といったイメージだろうか。これを二・五人称の死と称する研究者もいる。

ましてや、医療技術の向上で、亡くなるまでの寝たきり期間が延伸し、患者が苦しむ姿を見る時間も長くなっている。親が亡くなった時には、子どもたちは悲しいというよりは、「これで親が苦しむ姿を見なくて済む」とか、「苦しみから解放されて、よかった」という気持ちの方が強い。 <中略> 終末医療の進展で余命が延びるとはいえ、患者本人の QOL(生活の質)を考えると、延命が誰にとってメリットがあるのかについて、私たちはもっと考える必要がある。身近な人の死を悲しめない背景のひとつには、終末期の延伸も挙げられる。

出典；小谷みどり（2025）．<ひとり死>時代の死生観 「一人称の死」とどう向き合うか（pp.122-125）．朝日新聞出版． を一部改変